

# 子どものスマホ・SNS利用 保護者ができるトラブル・ 被害対策とは

● 低年齢化が進む  
● スマホ・SNS利用

NTTDコムモバイル社会研究所の「2023年親と子の調査」によると、スマホ所有開始年齢は、男女ともに中学生になるタイミングである12歳が最多でした【図表1】。次に多いのは女子は11歳、男子は13歳と、女子の方が所有開始年齢が少々早くなっています。スマホは小学校高学年くらいから持ち始め、中学生くらいにはほとんどの子が持つようになっていっています。

SNSの利用開始も早くなっています。同調査によると、LINE・Instagram・TikTok・Xのいずれかを利用している小学生は上昇傾向で、63%に上りました。特に中学生は、ほとんどの学生が利用している状態です。周りに自分のスマホを持つ子どもが増えること、通学に電車を使ったり、部活などでの連絡に必要となることなどが理由でしょう。

サービス別の利用率を見ると、LINE・



Instagram・TikTokの利用率が上昇傾向にあります【図表2】。小学校低学年・高学年・中学生ともにLINEが利用最多となっており、中学生では92%に上ります。LINEは家族間での連絡に多く使われており、低年齢でも利用する子どもが多く、コミュニケーションインフラと化しているのです。TikTokの利用率も伸びが顕著で、それぞれ17%、31%、52%まで増えています。TikTokは特に10代における人気が高く、小学生などにも多く利用されているのが特徴です。Xのみ、サービス改悪などの影響が減少が続いている状態です。

実は、ほとんどのSNSは規約で13歳以上が対象となっており、LINEも12歳以上推奨となっています。ところが前述のように、小学生など、それ以下の対象外の年齢で利用している子どもは少なくありません。対象年齢が設定されているのは、それ以下の年齢では使いこなせず、リスクがあると考えられるためです。そのような年齢制限を知らず、低年齢の子どもが使った結果、被害



ITジャーナリスト／  
成蹊大学客員教授  
高橋 暁子

。[たかはし・あきこ] SNS、10代のネット利用、情報モラルリテラシーが専門。スマホやインターネット関連の事件やトラブル、ICT教育に詳しい。NHK「クローズアップ現代+」「あさイチ」などTV出演多数。

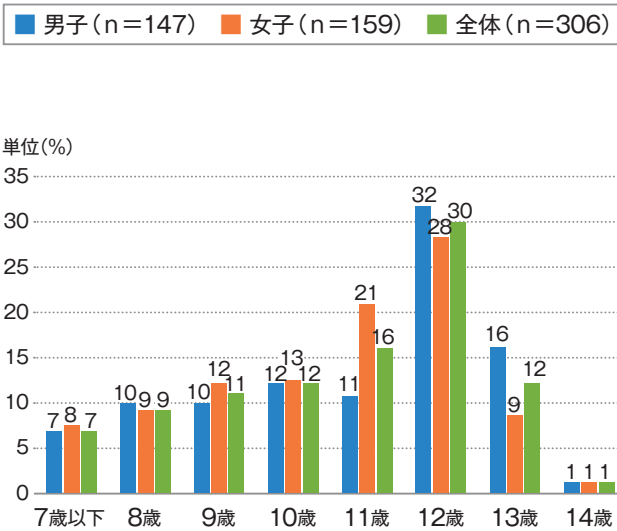
やトラブルに遭ってしまっているというわけです。

子ども達は、家族や身近な友人と連絡を取るだけではなく、SNSを使ってネット上の友達「ネット友」を作ったり、ネットで知り合った人に会いに行ったりしている実態があります。ニフティが運営する子ども向けポータルサイト「ニフティキッズ」のネット友に関する調査（2024年8月）によると、ネット友がいる小中学生は69・6%と約7割でした【図表3】。ネット友に会ったことがある割合も、16・2%に上ります。今の子ども達はスマホネイティブ、SNSネイティブ世代であり、ネットでのやり取りや交友に抵抗感がほとんどありません。それ故、ネットで知り合った人とやり取りしたり、会ったりしてしまい、様々な事件に巻き込まれてしまっているのです。

全国の小中学生に一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークを整備する、いわゆる「GIGAスクール構想」によって、全国の小中学生が自由にインターネットに接

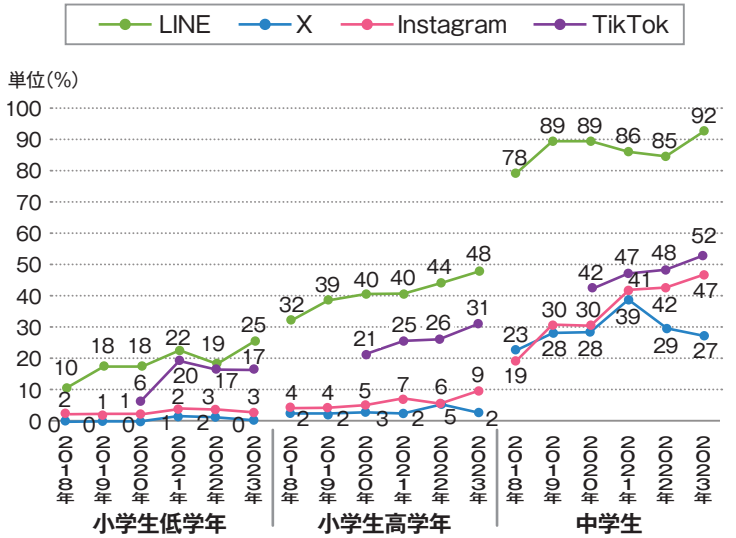


【図表1】  
小中学生のスマホ所有開始年齢



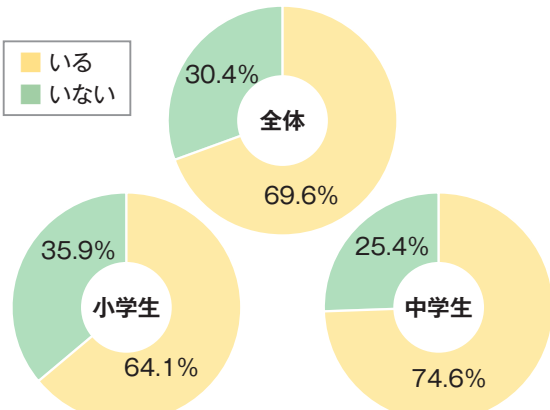
出典：NTTドコモモバイル社会研究所「2023年親と子の調査」

【図表2】  
小中学生のサービス別SNS利用率 経年推移



出典：NTTドコモモバイル社会研究所「2023年親と子の調査」

【図表3】「今、ネットはいる？」



出典：ニフティ(株)「ニフティキッズ」にて「ネット」についての調査

2025年に、オーストラリアで16歳未満のSNS利用を禁止する法案が施行される

子どものネット利用で起きるトラブルとは

続できる環境が整いました。すべての子どもがICT機器を使えるようになったのは良いことですが、逆に言えば、すべての子どもがネットを使って自由に情報や人にアクセスできるようになったことを意味します。一方、保護者や教員などはリテラシー教育等も受けていない世代であり、ネットやSNSなどへの知識が乏しく、子ども達への教育や見守りなどが十分ではないことが懸念されます。学校の貸与端末を使って誹謗中傷が行われ、学校につながる事件まで起きており、**学校や家庭での適切な指導が求められているのです。**

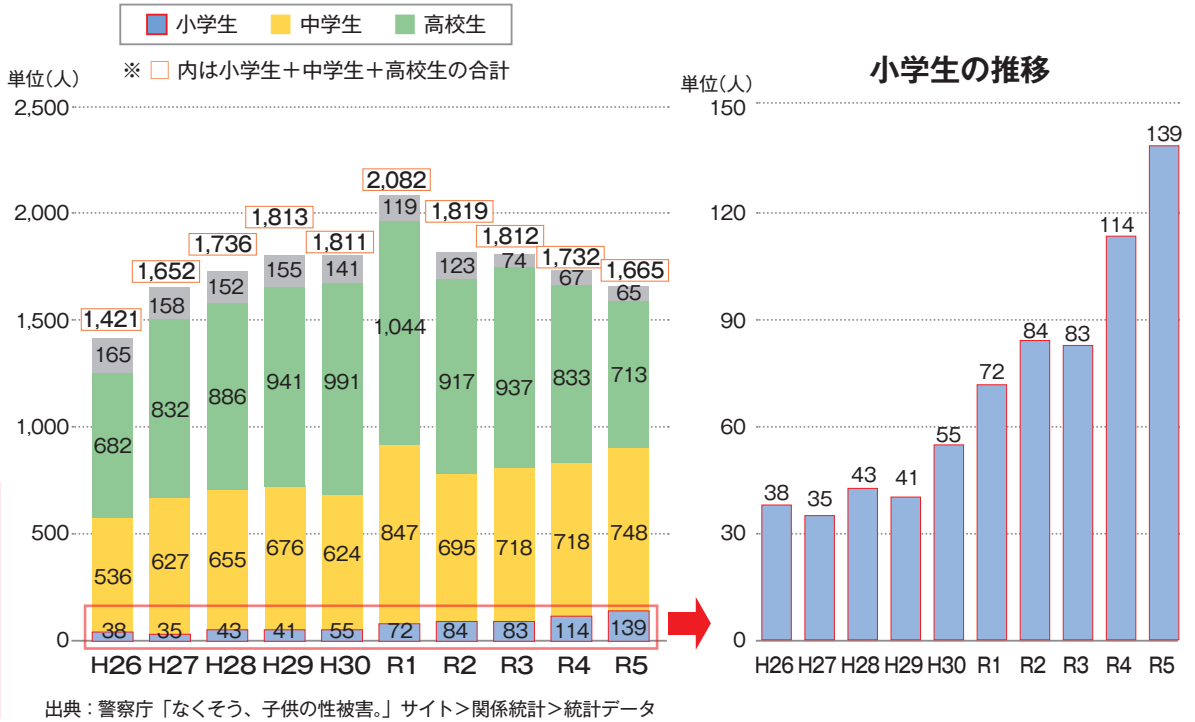
す。未成年におけるSNSでのネットいじめ、SNSによる性被害拡大、不適切な動画等を見過ぎることによる摂食障害や自殺の増加などが問題視されたためです。では、日本ではどんな被害やトラブルが多いのでしょうか。

子どものネット利用で多いのが、コミュニケーショントラブルです。文章力や読解力の不足などから、多くの子どもが友人間でのトラブルを経験しています。コミュニケーショントラブルやリアルでのいじめから、ネットいじめに発展することもあります。ネットいじめは「LINE」などの外部から気付きづらいところで起こることも多く、保護者は子どもとコミュニケーションをとり、**早期に把握し対処することが大切です。**

SNSやオンラインゲーム、動画共有サービス等の利用は、多くの子どもが長時間化する傾向にあります。学業不振や人間関係トラブルなどをきっかけに、逃避的にネットにはまり、その結果ネット依存状態となったり、不登校状態となってしまう子どももいます。

不特定多数とのやり取りが増えることで、誹謗中傷トラブルに巻き込まれることもあります。誹謗中傷で罪に問われることが多い「侮辱罪」は厳罰化しており、匿名での書き込みも開示請求がスピーディになったことで罪に問われることが増えています。池袋の乗用車暴走事故被害者遺族に対して誹謗中傷メールを送ったとして、14歳が書類

【図表4】SNSに起因する学職別被害児童数の推移



送検された例もあり、被害者だけでなく加害者とならない教育も必要となっています。警察庁発表によると、子どもの性被害はSNSで加害者と知り合うことで起きることがほとんどです。性的目的を隠して子ども

にも近づくいわゆるグルーミングによって誘拐事件が起きたり、騙されて裸の写真を送ってしまう自撮り被害などにもつながっています。スマホの所持開始の低年齢化により、小学生の被害が増加傾向にあるのが注意すべき点です【図表4】。なお、性的目的を隠して16歳未満の子どもに面会を要求したり、裸の写真や動画を送るよう要求することは、「グルーミング罪」として罪に問われるようになっていきます。

XやInstagram、TikTokなどの他、低年齢の子どもでも利用しているLINEのオープンチャットやオンラインゲーム等で知り合い、被害に遭うケースも増えていきます。子どもにそのようなサービスを利用させる場合は、知らない人とやり取りしたり会ったりしない約束を取り付けておく必要があるでしょう。

また近年、SNSで募集されている闇バイトに中高生が応募し、特殊詐欺で逮捕される例が増えています。山口県光市での強盗予備容疑で逮捕されたのは、関東地方の中学生等であり、SNSで闇バイトに応募していました。中高生でもこのような犯罪に巻き込まれる例が増えており、こちらも注意が必要です。

**子どものネット利用で保護者が注意すべきことは**

まず大切なことは、子どもにネットデビューをさせる前に、親子で話し合っ

やルールを決めることです。約束やルールを決めている家庭では、決めている家庭よりもネットトラブルが少ないことが分かっています。適切な使い方や危険性について考えるきっかけになり、決めたルールが行動指針となるためでしょう。一度自由に使わせてから後で制限しようとしても、子どもは聞いてくれません。スマホを持たせる前やSNSを利用させる前に決めることが大切なのです。

トラブルが起きてから慌てる保護者が多いのですが、実は子どもに多い被害やトラブルを防ぐために、通信事業者やメーカーがあらかじめ安全のための設定や対策を用意しています。まず、子どもに利用させるアプリ等でどんなトラブルや被害が起きているのかについて調べましょう。どんな安全のための設定や対策が用意されており、どんな設定で使わせたらいいかを考えて、準備してから使わせるべきなのです。

たとえば、子どもの長時間利用などは、iOSのスクリーンタイム、Androidのファミリーリンク等のペアレンタルコントロール機能で防ぐことができます。利用時間について約束を決めた後、1日の利用時間の長さや終わりの時間を設定することで、約束が守りやすくなります。InstagramやTikTok、YouTubeなどの長時間利用につきやすいアプリでも、設定した時間でアラートが出るような設定が可能です。フィルタリング機能や、課金やアプリのダウン





【図表5】子どものネットトラブルに関する相談先

- 誹謗中傷されたら……………「誹謗中傷ホットライン」  
セーファーインターネット協会
- 裸の写真やネット投稿されたら…「セーフライン」  
セーファーインターネット協会
- ネットいじめに遭ったら……………「SNS相談事業」の「SNS相談窓口一覧」  
厚生労働省

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

誹謗中傷された場合は、「セーフライン」に依頼して、書き込みを削除してもらいま

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに遭った時に、保護者ができること

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

誤情報、偽情報を見分けるコツは「だいふく」

大人でも難しいのが、ネット上に出回る誤情報や偽情報の見分け方です。能登半島地震では、誤情報や偽情報が多く出回ったことが報じられました。災害時は、混乱か

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

【図表6】正しい情報を見抜く「だいふく」

- だ 誰……情報の一次ソースの発信者が信頼できるかどうか？
- い いつ…情報が最新のものであるかどうか？
- ふく 複数…その情報を調べ信頼できる情報源が複数あるかどうか？

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。

子どもがネットトラブルに巻き込まれた場合は、どうすればいいのでしょうか。多くのネットトラブルには、相談できる専門機関が用意されています。無料で相談でき、具体的な対策について教えてくれるので、ぜひ活用しましょう【図表5】。